

インフルエンザにタミフルは効かない！ 高確率で嘔吐や精神障害　すでに欧米では利用わずか

今年もインフルエンザの季節がやってきました。ワクチンの値上げも話題になっています。

今回は、昨年発表された「コクラン共同計画」でのタミフルの調査報告をご紹介します。

英国に本部を置き、医療行為の有効性に関する情報を提供する国際的非営利団体のコクラン共同計画が昨年4月、インフルエンザ治療薬「タミフル」に関する調査報告を発表し、衝撃が走りました。タミフルはインフルエンザにはほとんど効かないうえ、高い確率で副作用が出るという結果が出たからです。

発表された内容の骨子は、以下のようなものでした。

問い：タミフルはインフルエンザに効くか？

答え：ノー

タミフルを使用した成人インフルエンザ患者の発症期間は6.3日。投与しなかった成人患者の発症期間は7.0日で、早く治るという明確な結果は得られなかった。

問い：タミフルは安全か？

答え：ノー

副作用として成人の4%、小児の5%に吐き気や嘔吐が見られ、3.1%が頭痛を訴えた。また、タミフルを予防的に服用した人の1.1%に精神症状が表れた。

そして、「インフルエンザの予防または治療のいずれかのために、タミフルなどノイラミニダーゼ阻害剤の使用に関して意思決定を行う際には、利益と害のバランスを考慮すべきである。インフルエンザウイルスに対する特異的な作用機序をメーカーが（有効性の根拠として）提示しているが、これは、臨床的エビデンスには合致しない」とも記しています。

この報告が大きな意味を持つのは、9623人のデータを解析して行われた、最も信頼のおける調査だからです。それを可能にしたのはタミフルの製造元である巨大製薬企業・ロシュから臨床データを提出させることに成功したからです。

ロシュは、はじめは自分たちに不利な結果が出ることを恐れ、さまざまな理由をつけて臨床データの提出を拒んでいましたが、コクラン共同計画が英国や北欧などの政府を動かして圧力をかけた結果、ついに入手に成功したのです。

タミフルを大量に使用する日本

この調査報告の発表が行われたあと、コクラン共同計画は提携関係にある英国医師会報編集局と共同で各国の政府にタミフルの使用を再検討するよう声明を出しています。

英国では国民の8割に処方できる膨大な量のタミフルを備蓄していたので、メディアは一斉にトップ扱いで報じました。特に秀逸だったのは、英国を代表する新聞であるガーディアンの大長な記事でした。同紙は、「英国政府はこの薬にこれまで5億ポンド（925億円）も使ってきた。これはスキャンダルだ」と断じたあと、英国流のブラックユーモアで、「100万人にタミフルを処方すれば、4万5000人が嘔吐し、3万1000人が頭痛を訴え、1万1000人に精神障害が出る。もしインフルエンザの大流行が始まったら、我が英国には5000万人分のタミフルがあるのだから、すごい嘔吐量になりそうだ」と痛烈に皮肉っています。

記事のトーンは、英国政府はロシアの詐欺に引っかかったといわんばかりですが、それでも欧州諸国には救いがあります。

備蓄は膨大な量でも、医療の現場では以前からタミフルの評価は低かったため、あまり使われておらず、EU 諸国でのタミフルの売り上げは、全体の数%程度で済んでいたからです。

米国も以前からタミフルの効果には懐疑的で、米国疾病管理予防センター（CDC）が、タミフルの使用を推奨しているのは、入院が必要な重症患者、65 歳以上の高齢者、5 歳未満の小児、気管支喘息や糖尿病などで免疫の落ちている人、に限っています。

それに引き換え日本では、依然としてインフルエンザになったら即タミフルが当たり前のようです。厚生労働省の治療ガイドラインを見ても、生命の危機がある重症患者から軽症の患者まで（10 代を除く）、タミフルは第 1 選択薬とされています。

パンデミック（世界的大流行）に備えた備蓄の量も半端ではありません。厚労省 HP によると、日本では 2013 年 4 月時点で 6310 万人分のインフルエンザ治療薬が備蓄されており、そのうちの 5424 万人分がタミフルです。

実は、タミフルの売り上げの約 8 割は日本市場で、もはやタミフルは日本なしでは立ちゆかない商品になっています。コクラン共同計画が決定的な調査報告を出したにもかかわらず、日本の厚労省や御用学会は今のところ、なんの動きも見せていません。

すでにご存じの方も多いと思いますが、タミフルはインフルエンザウイルスの増殖を抑えますが、殺すわけではありません。タミフルを飲んだことで安心して、無理に働き続ければ、それこそ取り返しのつかないことになる可能性もあります。タミフルの多用によって、タミフル耐性インフルエンザウイルスも多数報告されています。

インフルエンザにかかったら、安静にして体力を消耗させない。それがインフルエンザを治す最良の方法であり、広めないための最善の方法でもあります。また、最良の予防法は、ワクチンを打つことではなく、日頃から疲労をためずバランスのよい食事・適度な運動を心がけ、免疫力を高める生活をするることなのです。

次回は世界から見た日本人とインフルエンザワクチンについて考えてみます。

(文 = 宇多川久美子 / 薬剤師・栄養学博士)